

文芸欄



紅梅会 (東灘区)

山笑う風が心耳捧げゆく
山笑う空と風とが遊泳す
風樂し蒲公英絮の旅立ちぬ
蒲公英や絮を飛ばして物思ふ
たんぼの彼の国にも咲き出づか
六甲の山裾に住み山笑う
山霞み花粉まかせの山笑う
庭に出るたのしみたんぼ日和かな

朋子
美恵子
佐智子
比佐美
扶喜子
里子
松子
恵

梅苑句会 (東灘区)

若葉もえもの思う日や空青し
穩やかな日本の空に桜舞う
パパパパと叫ぶおさなに春よ来よ
桜爛漫支えし幹に苔むして

藤綱 孝子
山田シヅ子
時枝千穂子
深沢 清子

篠原句会 (灘区)

春雨に児を抱き走る若き母
卒業や位牌の父へ語りかけ
靴紐に気をそらされて花疲れ
老梅に花あとの実のいじらしさ
夜桜のトンネル密にスマホ連
きのう咲き今日は散り行くさくらかな
旧暦で祝う我が家の雛祭り
ぐみの木の芽吹きいつせい今日の朝

河野 光代
木原 愛子
渡辺 寛治
清水 昭子
仁居津 勲
伊藤 秀子
村上 彌彦
横田 昌子

宝愛句らぶ (中央区)

北野坂ミモザが似合う坂の町
新造船就航待つや春の海
四月尽のんびり低く飛行船
登下校想ひで多きやまつつじ
亡き友と酒酌み交わす花の下
作業着の汚れを競う新社員
須磨の寺青葉の笛に匂う黴
東雲や摩耶の嶺嶺風光る

和子
悦子
千枝子
道子
和志
哲男
啓臣

梅の美会 (兵庫区)

老いてなお鮎子の列並び待つ
春色のトンネル潜り家路着く
支えられ卒寿の祝いあたたかし
雨来そう金の成る木を挿し木する
巢立ちゆく親鳥の愛ひなにそそぐ

藤田ユイ子
山口 茂子
藤井 歌子
岡田富早恵
林 静野

高原ささゆり会 (北区)

句歌集は名刺代わりに配られる買いたくなるは川柳本
枯れ木かと思し枝につぼみみて胸に伝わる春の鼓動か

かんいち
楠守喜久子

花山短歌会 (北区)

暖かな日差しをあびて桜木の蕾みふくらむ開くを待つか
裏庭にフキのあまた育ちいてアリスのママさんどうぞどと
ひよっこりと歯科医院にて旧友に会い互いの現在を夢中で交流

磯元カヨ子
船崎めり子
山田加壽代

個人

覚めては又浅きまどろみ繰り返す思ひは深き春暁の間
親田棚弟背なりに水運び食事風呂たき昭和のケアラ

(灘) 上田 節子
(中) 水口 敏子

独り言多くなりけり五月雨
時計草いま何時かと問うてみる
青葉クラブ (北区)

山田 朝子
栗野 富江

熱き茶を勧める母の暑気払い
病葉を見つめて我も自己診断
藍々と丹生の山夏に入る

馬場みつえ
山本 恒雄

堪え忍ぶ彼の地にも来よ春の温もり
満開の花散りつぐや風通る
三度の検診終えて安堵の春
春めくや腰の痛みに曾孫の手
麗らかや鳩小屋に声のもどり来て

南 久美子
松村二三枝
山下 久一
てる子
若林 節子

雨一夜一気に開く黄水仙
好天を世情に籠り弥生尽
ひまわり句会 (北区)

林 巳三子
井関 礼子

初夏祭風になぶられ疲れけり
軒下や競ふて咲くは蘭の花
ひよどり台句会 (北区)

石井 敏子
辻 寿賀子

春来れぞ戦禍ウイルス先見え
安曇野や田に山写し初桜
風薫るゆれてかけ出すランドセル
桜餅携え墓に知らせ三つ
音もなく只ひたすらに散る桜

塩見 光子
田中 光子
筒井 豊子
中井 光子
矢谷登美子

早番のナースのカタコト春めける
小糠雨峠を越えれば遍路宿
襟を抜きちよいと小粋に春シヨール
漁火の朧にゆれて浮御堂
相部屋の遍路が語る半世紀
春眠や八十路の二度寝覚めやらず
娘より播州織の春シヨール
さみどりの草木染なる春シヨール
春シヨール似合ふほほえみ汀子逝く
日本の春を名残りの桃花水

金行 隆
久松 礼子
松本 洋子
増田 嗣夫
岸下 庄二
秋山 弘之
脇坂有多子
黒田 久江
藤井久美子
北条 幸夫

鳥帰る一群を又一群を
うつつしいニユース撥ね除け芽ぶく木々
つかの間の別れ雪かも地区そうじ
指差えて撥のすべりし寒稽古
公園の土柔らかく春兆す
ゆるやかな流れ四月の鯉太し

貞永 弘子
藤田 和夫
松隈 弘子
佐溝満喜子
丸尾 嘉子
高石 勝行

孫の結婚式ばあさん2人仲良く出席留めそで姿の娘に自分の半生思う
花まつり甘茶の香り懐かしむおさなき頃の作法の思い出
弟妹とツクシ摘みたるさとの土手は拓けて跡形も無く
視野に入る車窓流るる須磨の海霞む彼方は国生みの島
大輪の花散るように舞い下りた曇り日の空羽根白き鳩
とぼとぼと家路を急ぐ足元を今宵の月はやさしく照らす
わが庭の紫陽花切り取り父母の墓前に手向け線香供える
すぎな摘みわが手製なるハーブティ身体サラサラ廻る心地す
漸くに円周率の暗記が出来た八十八才二百拾桁

石本 宏一
林 慎一
松下修二郎
上原 綾子
若田美代子
高見希豫子
大畑留理子
中村佳代子
樋山 隆夫
久下 順司
山本雄二郎
木村 敏博

八十路来て会話少なき冬の雨
福寿草句会 (須磨区)

草餅や勝負そこそこ桜餅
草餅や日のぬくもりが母の味
新調の制服の衿風光る
風光る黄や紫のランドセル
咲きあふれ赤一色のつつじかな
多間台ときわ会文芸部 (垂水区)

石本 宏一
林 慎一
松下修二郎
上原 綾子
若田美代子
高見希豫子
大畑留理子
中村佳代子
樋山 隆夫
久下 順司
山本雄二郎
木村 敏博

人離れ残りし牡丹の白きこと
言葉無くスマホの写真紅牡丹
紅牡丹色を守りしわらの傘
逢えぬ友早く見せたい庭牡丹
人も無き屋敷の庭に牡丹あり
桃山台クラブ文芸部 (垂水区)

田畑美恵子
大上 昭敏
田野 育利
森本 珠実
山本スミ子
大橋 治子
喜田 弘征
阪本 道子
川上 富範
武井 勇二

腕高く和太鼓打てば風青し
草餅の焼けし香りを懐かしむ
母の忌の山沿い行くや藤の花
菖蒲湯に浸かりてそつと我が手見る
愛犬を思い出させる卯月雨
月が丘むつみ会 (西区)

藤森 勝子
川上 富範
武井 勇二

晴天や庭に色どる杜若
青嵐の人逝きて昭和遠くに
五月来る年を重ねて卒寿かな

川上 富範
武井 勇二

京あるき竹林わたる初夏の風
畑より帰って来たかドアの音
湯煙や星もあなたもおぼるなり
清し殿桶公祭や五月かな
釋迦堂に説教白布御身拭
新鮮な初夏を並べる直売所
コロナ禍の春茶毗に付す姉涙雨
朝日差し雛の微笑む仏間かな
石垣の芳草つみたり通学児
漆黒のレコード拭きて長閑なり
目覚めゆくものを抱へて山笑ふ
笹かざり月を相手の手勺かな
ねねの像有馬の足湯春うらら

(東) 天井 紀子
(東) 武田 勝子
(東) 都倉 知子
(灘) 福井 悦子
(灘) 安田奈美江
(灘) 山上 幸子
(北) 鎌内千代子
(北) 竹村 良子
(北) 山田キミ子
(須) 渡辺眞佐代
(須) 高橋 純子
(垂) 藤田 恵子
(垂) 山田としゑ

桂木ひふみ会 (北区)

デパートのコスメフロア別世界
削除した数多の悪を嘆ぎつける
加齢臭テレビのCM嘘じやない
ガーデニング花の香りにつつまれて
古代より香水淑女魔女にする
筑栄会 (北区)

荒木 宗Q
京念久美子
世岡 淑子
杉尾 悦子
大和ケント

年を取り地縁を継ぐ川柳で
家と墓後世に継ぐ難しさ
この街の地域のきずな誇りたい
桜咲く親とつなぐ手うれしそう
淡路から眺むる橋は故郷恋し
人と人繋がりうまく笑みが出る
赤い糸切れそでつなぎ五十年

かほう
三 茶
あきら
ときこ
とし子
まり子
まさこ

俺トイレ回しといてと妻が云う
夫婦道車イスを押す夫かな
一人になり家計が不明泣かされる
短冊に世界平和と孫が書く
コロナ禍で牛乳あまれば猫にも飲み
俺の夢コロナに盗まれペシヤンコに
今回で投句も終わりありがとう
扇風機持つて外出風を切る
春風に誘われ小さな恋の花

(東) 東 健治
(東) 早川キミエ
(東) 増田 芳之
(北) 北野 利一
(北) 宮内美栄子
(垂) 小高 肇
(西) 萩原 浩一
(西) 藤長 文子

今日居るよラインが入りチヨット寄る
お茶して喋り笑って又ね

(北) 清水 久子

俳句

花水木おでかけ前のすまし顔
見えますか桜並木の清水川
崖上の枯木一本空を掃く
紅梅が一気に咲いて目白くる
わが庭に芍薬牡丹ダリヤ待ち

(西) 小幡美沙子
(西) 芝田 律子
(西) 寺岡 洋子
(西) 濱頭ミノル
(西) 藤原 健二

川柳

個人
俺トイレ回しといてと妻が云う
夫婦道車イスを押す夫かな
一人になり家計が不明泣かされる
短冊に世界平和と孫が書く
コロナ禍で牛乳あまれば猫にも飲み
俺の夢コロナに盗まれペシヤンコに
今回で投句も終わりありがとう
扇風機持つて外出風を切る
春風に誘われ小さな恋の花

(東) 東 健治
(東) 早川キミエ
(東) 増田 芳之
(北) 北野 利一
(北) 宮内美栄子
(垂) 小高 肇
(西) 萩原 浩一
(西) 藤長 文子

へなより

今日居るよラインが入りチヨット寄る
お茶して喋り笑って又ね

(北) 清水 久子



あとがき

コロナ禍ではありますが、上手にコロナとつきあい、工夫した事業も多くなっていると感じております。ソーシャルディスタンスで距離を保ちながらも心の距離は近くありたいものです。市老連の事業も本格始動。3年ぶりの事業開始や総会も実際に集まって実施しております。今後も会員の笑顔と元気な声に出会うことを楽しみにしております。今回も多くの原稿ありがとうございました。「KOBEシニアクラブ」が会員間の情報交換の場となればと願っております。今後ともどうかよろしくお願いたします。